

1200万署名・NPT代表派遣 News

発行：原水爆禁止日本協議会 電話：03 5842 6031 FAX：03 5842 6033

Eメール antiatom55@hotmail.com 2009年11月19日 No.16 NPTまであと164日

東北ブロック
原水協学校

学習ふかめ、活動を交流 署名目標達成へ決意

11月14、15両日、岩手県盛岡市で2009年東北ブロック原水協学校が開催され、東北6県原水協、地域原水協からのべ60人超が参加。学習を深め、2010年NPT会議にむけ運動のいっそうの前進の決意を新たにしました。

1日目は、川田忠明さん（日本平和委員会常任理事）と松本由理子さん（ちひろ美術館・東京副館長）の講演。川田さんはパワーポイントを駆使し、90年代以降の世界の反核運動・原水爆禁止世界大会の歴史から、2010年NPT再検討会議と「核兵器のない世界を」国際署名の重要な意義を解明し、新政権誕生やオバマ政権の動向、最近のヨーロッパの動きもふまえて、日本の運動の重要性を強調しました。

松本さんは、今もなお大きな感銘を与えるいわさきちひろさんの作品の内容、エピソードなどを映像を活用して紹介。原水協の事業活動の大きな柱であるちひろカレンダーの普及活動の今日的意義をのべました。

2日目は、「NPT会議めざす署名運動の飛躍、代表派遣のとりくみ」「原水協組織の確立・強化」を中心テーマに、各県・地域・団体のとりくみを交流。成果・前進点だけでなく、弱点・不十分さも率直に出し合いながら積極的な意見交換を行いました。

呼びかけ人をつのり、町民過半数の署名にとりくむなどの積極的計画や、各地の多彩なとりくみが報告され、労働組合の役割、青年層へのはたらきかけの重要性が強調されました。

NPT要請団予定者（医療生協）が生協支部学習会の講師を担当した経験なども話され、出された各地の前進点・教訓に学び、東北全体で署名の底上げを図り、目標達成をめざすことを確認しました。

全労連「憲法・核廃絶学習リーフ」発行 リーフと署名用紙を全組合員に届け、 職場学習を力に署名運動を広げよう

全労連は、500万筆の目標達成にむけて、11月からの運動の飛躍をつくることを提起し、全組合員向けの学習リーフ（右表紙写真、オールカラー、A4版4ページ）を発行しました。

リーフは、「核兵器廃絶に向け今絶好のチャンス」として、4月のオバマ米大統領のプラハ演説から、9月24日には国連安全保障理事会で「核兵器のない世界」をめざす決議が全会一致で採択される、鳩山首相も「唯一の被爆国の果たすべき道義的責任」として「核兵器廃絶の先頭に立つ」と表明したことなど、核兵器廃絶めざす運動に弾みがついていることを紹介。被爆国・日本での「核兵器のない世界を」国際署名1200万筆の力で国際政治を動かそうと訴えています。

全労連はリーフを活用し、11月～12月に職場学習をおこない、組合員が職場の仲間や家族・知人などに核兵器廃絶と憲法の署名を広げるとりくみを展開することを呼びかけています。



最新情報はコチラ 原水協通信 blog | <http://www.antiatom.org/g-news/>
携帯電話からもアクセスできます。

「いま核問題は大事」相模原市長が署名 神奈川

2009年日本平和大会神奈川県実行委員会は13日、相模原市の諸団体とともに相模原市役所を訪れ、市長に平和大会への協力を要請しました。

直接対応した加山俊夫市長は、大会への協力を快諾。市として、動く分科会・相模原コースで基地返還に向けての市の取り組みや課題などについて報告していただけることになりました。また、相模補給廠を臨む地点で説明することや交流の場に参加できるようにもはかりたいとも述べました。「核兵器のない世界を」署名の呼びかけに市長は、「いま核問題は大事。署名しましょう」とその場で署名されました。

5万目標達成めざし学習交流決起集会開催 京都民医連



京都民医連は11月12日、「核兵器のない世界を」署名推進のために学習交流決起集会を開催、54人が参加しました。

開会あいさつに立った尾崎望会長は、核兵器廃絶への世界の変化を確信に、これまでの経験を大いに交流して5万筆の署名目標のためにがんばろうと呼びかけました。

学習会では、近畿高看校長の若田泰先生が「医療従事者と戦争 - 民医連はなぜ戦争に強く反対するのか」と題して講演(左写真)、民医連綱領改定案で憲法と核兵器廃絶が明記されていることも触れながら、731部隊など日

本の医学界の戦争犯罪を詳しく解明し、医療従事者として、いのちを抹殺する戦争に反対し、平和のためにたたかうことの重要性を強調しました。

署名のとりくみ交流では、ピースチャレンジャーに登録した人のほとんどが目標を達成し牽引車の役割を果たしている(上京病院) 中央病院で父親がつらい被爆体験を語ったことがきっかけで平和運動に積極的にとりくむようになった。街頭では声援も受け、若者、外国人も気軽に署名をしてくれる(被爆2世・第二中央病院) 断られない署名、1筆が世界を変える署名だ(中央病院) 1日35筆以上を目標にがんばって、いま1305筆になっている。NPTまでに2000筆集める(第二中央病院友の会)などの発言がありました。

県連事務局からは、11月7日に開かれた全日本民医連の署名推進活動交流集会(東京)の報告があり、8月までの署名月間の勢いをとりもどし、全職員、共同組織が一丸となって目標をやりきろうとの訴えがおこなわれました。

京都民医連では、NPT代表派遣目標5人のうち、8月末までの署名推進月間の上位2人(1033筆集めたふくちやま診療所所長の医師と922筆集めた中央病院職員)が決定しています。署名の到達は目標5万筆にたいして27,412筆です(11月11日現在)。

2010年 NPT 日本原水協代表団に1200人を超える「仮申し込み」

多くのみなさんの取り組みに感謝します。

10月以来取り組みを進めてきた、2010年NPT再検討会議への日本代表団仮申し込みは、多くの方のご協力で、都道府県原水協扱いが1097人、中央団体扱いが118人の合計1215人となりました。とりくみに感謝申し上げます。

代表団の今後の取り扱いについては、11月末の機関会議後にお知らせします。

